湘南 水辺の探鳥マップ

市町のシンボル　鳥

	鳥　名	制定年
平塚市	しらさぎ※1	2002年
藤沢市	カワセミ	1992年
茅ヶ崎市	シジュウカラ	1997年
秦野市	ウグイス	1972年
伊勢原市	ヤマドリ	1972年
寒川町	ダイサギ	1998年
大磯町	かもめ※2	1984年
二宮町	――	未　定

※1　コサギ、チュウサギ、ダイサギなど しらさぎ類
※2　ユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメなど かもめ類

探鳥地

博物館、科学館、県民の森など環境学習施設

マップの使い方

探鳥マップには「かながわの探鳥地50選」などの探鳥地が図示されていますが、身近な川などの水辺環境はみな大切な探鳥地と言えます。博物館、科学館、県民の森などの環境学習施設で勉強したりして、身近な水辺や親水公園などにどんな野鳥たちがいるか探鳥してみてください。
※コラムは小宮昇さんが執筆しました。

探鳥マナー

探鳥（野鳥観察）はありのままの自然を楽しむのが趣旨なので、生き物の命を奪ったり、傷つけたりせず、生き物と共生する心で観察しましょう。

野鳥の観察にはルールがあります。携帯電話やラジオを鳴らすことは遠慮する、大きな声を出さない、静かに歩く、必要以上に鳥に近づかないなど、これらのことを守らなければ野鳥の自然な姿を観察することはできません。また巣を見つけても卵や雛に触ったり、近くで長時間観察したりすることはやめましょう。特に写真を撮る方は気をつけましょう。

観察は全て自己責任で行われます。他の人や自然に迷惑をかけないよう、明るく機敏に行動しましょう。夏でも長袖・長ズボン・滑りにくい靴で、水辺に行くときはゴム靴・長靴等を用意し、冬でもツバ付きの帽子、タオル等を準備し、寒さや暑さ、また雨風など、自分の判断で仕度するよう心掛け、自分の足腰でしっかりと大地を踏み、自然に親しみ、自然を慈しみ、野鳥を初めとした生き物たちに親しんでください。

自分が出したゴミは必ず自宅にまで持ち帰りましょう。できたら落ちているゴミも可能な限り拾うよう心掛けましょう。

おたがいに挨拶しましょう

探鳥会や観察会に集合すると、その日の行動を案内する人から挨拶があります。参加する方は、是非元気良く挨拶してください。行動予定、観察できる鳥の種類や注意事項などの案内があります。

一日の観察が終わるとその日の結果についてのまとめの報告があります。よくメモをとって次回の観察会に役立ててください。

そして観察会の道すがら、農家の方々に田畑や林などで出会った時は、こちらから挨拶をしてください。“こんにちは”、“お邪魔します”と声をかけ、私達が近くをお邪魔していることを実感し、農家の方のご苦労を感じとってください。

農家の方々は田畑や林で働き農作物を収穫していますが、一方で自然に手を入れ野鳥に生活しやすい場所も提供してくれています。

野鳥も時には野菜や果実に被害を与えますが、一方では害虫を食べてくれたりもします。こうした営みを理解することも大変興味のあることです。

県指定の文化財“アオバト”

大磯照ヶ崎海岸に春から秋にかけて毎日のように飛来し、海水を飲むアオバトというハトがいます。若草色のハトで丹沢方面から10数羽から30羽ほどの群れで飛来し、多いときには1日に2000羽を超える数が数えられることもあります。高波の打ち寄せるときには波にのまれて数十羽が命を落とすことさえあります。

アオバトが海水吸飲に飛来する照ヶ崎海岸は、その貴重な自然環境を保全するために県の天然記念物に指定されています。

アオバト調査グループ【こまたん】のメンバーはなぜ危険を冒してまで海水を飲みに来るのかという謎を解くためにアオバトのくらしを調べ始めています。

丹沢で繁殖していることも映像に記録し、海水を飲む季節にはアオバトは果実食に偏しており、このためにナトリウム/カリウムバランスを保つために塩分を摂取するのではないか、雛に与えるビジョンミルクの成分を補うためではないかなどの仮説を立てて、日本各地の観察者と情報交換し、北はサハリンから南は屋久島までに分布するアオバトの生態を調査中です。

水辺の自然のドラマ

相模川下流域の一画、馬入水辺の楽校で冬鳥の観察会が催され、コンダクターと参加者約30名が集まり、川辺の野鳥が多数観察されました。カモ類、サギ類、カモメ類、そしてカイツブリ、カワラヒワ、ベニスズメ等20数種類が見られました。

その折り、相模川の中州に向かって、カワウ10数羽が一団となって魚を追い、岸の近くで水中に潜って餌をとる状況となりました。これを見ていたアオサギ、コサギ、カモメも一緒になって魚を捕りあい、あたり一面、鳥たちが立てる音が響きわたりました。

観察者一同この2～3分間、静寂の中でこれを見守り、生き物たちの営みを感動をもって味わい、言い知れぬ昂奮を覚えました。

県下ではこの地では毎年見られるミサゴ（タカ類）が、この時50㎝以上の鯉を捕らえて飛翔していくのも観察されました。人影のないところまで重い餌を運んでいき食べているようでした。

タゲリ舞う田んぼを大切に

湘南地域も都市化が進み、農地が住宅地や工業用地として開発され、さらに米の減反政策から年々田んぼが減り、貴重な水系の自然環境が失われています。

このような状況下に冬の渡り鳥であるタゲリが茅ヶ崎市の残された田んぼに毎年飛来してきます。野鳥の会の方の話では湘南地域のこの周辺ではかなりの数を見ることができるそうです。この地の田んぼで茅ヶ崎の農家の方々が農薬を減らして減農薬米を作って田園耕作を維持しているのです。これに呼応して市民有志がタゲリ米と名づけて購入し、少しでも支援していこうという運動が始まっています。

人間のためだけでなく、この渡り鳥のためにも積極的に田園を保持し、減農薬で米作りに励む農家を応援する、環境保全のための市民運動です。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の５万分１地形図を複製したものである。（承認番号 平18関複、第169号）